

特集：イタリアの広場

PIAZZA D'ITALIA

TEXTURE AND STRUCTURE

GENJI TSUTSUI



実測・写真・文 筒井源治

都市と広場のイメージ

「イタリアの魅力を作りあげ、それにこのうえなく堂々とした気品をあたえるものは、人間の歴史と精神の息吹きが、土、空気、色彩、構図および形式の要素と溶け合ってきた、比類のない融合物」である、とヘンリー・ジェームズは書きとめている。イタリアのあたえる欲びは人間的な要素、すなわち何世紀もの間に、自分たちの手で作りあげた風景に住むことからくるのであろう。

わたしたちは今まで、都市環境の計画について、あまりにも科学的、概念的、論理的、演繹的であった。現代の大都市がもう簡単な全体像をとらえることが不可能なほど、複雑で多様なものになってきたとき、そこに一つの反省が生まれてきつつある。都市はわたしたちに語りかけ、わたしたちは、そこに住むからにせよ、歩き回るにせよ、眺めるからにせよ、わたしたちがそこにいる町を語る。そういった町の「ものがたり」が理解でき、好ましい風景として語るができるとき、生き生きとした人間的な町があらわれるのであろう。イタリアの町はそういった人間的喜びに満ちた町として、多くの「ものがたり」をわたしたちに語ってくれるのである。

街路も広場も、イタリア人にとって生活の場であり、人間の生きる喜びにあふれた広間である。その広間は、軽々しく意気揚々として、陽気で精力にあふれ、いそがしい人びとで満ち満ちている。イタリアの町は常に、都市的空間の実体的モデルであり、多くのインスピレーションに満ちている。それは、石造りや煉瓦造りの町がもつ確かさ、形態的ほりの深さとスケール感、そこにまつわる人びとのつくりだす雰囲気、外に拡散しない内に向かった空間的充実感、強烈な太陽と構造物の対比、地形的变化と町のレジビリティなどがわたしたちに明確なイメージをつくりだし、魅力的な風景として映るのである。イタリアの町におけるイメージの明快さは、抽象的でなく具体的なものに即して思考するというイタリア的表現方法が、常にそのつくり出すものを機能を越えた一つの存在とするからであらう。

そういうイメージャブルな都市としてのイタリアの町をみなおそうところから、この筒井さんの「イタリアの広場」の研究ははじめられた。筒井さんは広場の資料収集のためにイタリアで3年間すごし、1年前日本に帰国後、資料の整理分析をし、その30余りの広場の一部が今回発表されることになった。この研究をもとに、都市的、建築的にイメージの構造を追求し、まちの「かたち」そのもののあり方を求めることができればと思うのである。

福永知義



はじめに

イタリアの地で、ガイドブックと写真集によって60ばかりの広場、都市をピックアップした。そして、一つ一つの広場と都市を実際に見て廻り、その中でも美しく、現在利用されている生きた広場を見付け出し、さらに理解しやすい建築空間をもつ広場を選択した。

こうして、現代に教える建築的遺産の重要性を知り、広場の研究を始めた。広場の研究の方法として、各々の都市で集めた多くの資料にもとづいて、現在の広場の状態を、私の図面として再成することで、広場の理解を深めようと試みた。

歴史的な遺産の研究にさいして、一般に誰もが抱く問題が、建築デザインを志す私に投げかけられる。過去に創り出された広場、それも、気候・風土もちがったイタリアでみられる広場が、都市計画された日本の現代の大都市や地方の小都市において、どのような可能性が見出されるかという問題が考えられる。

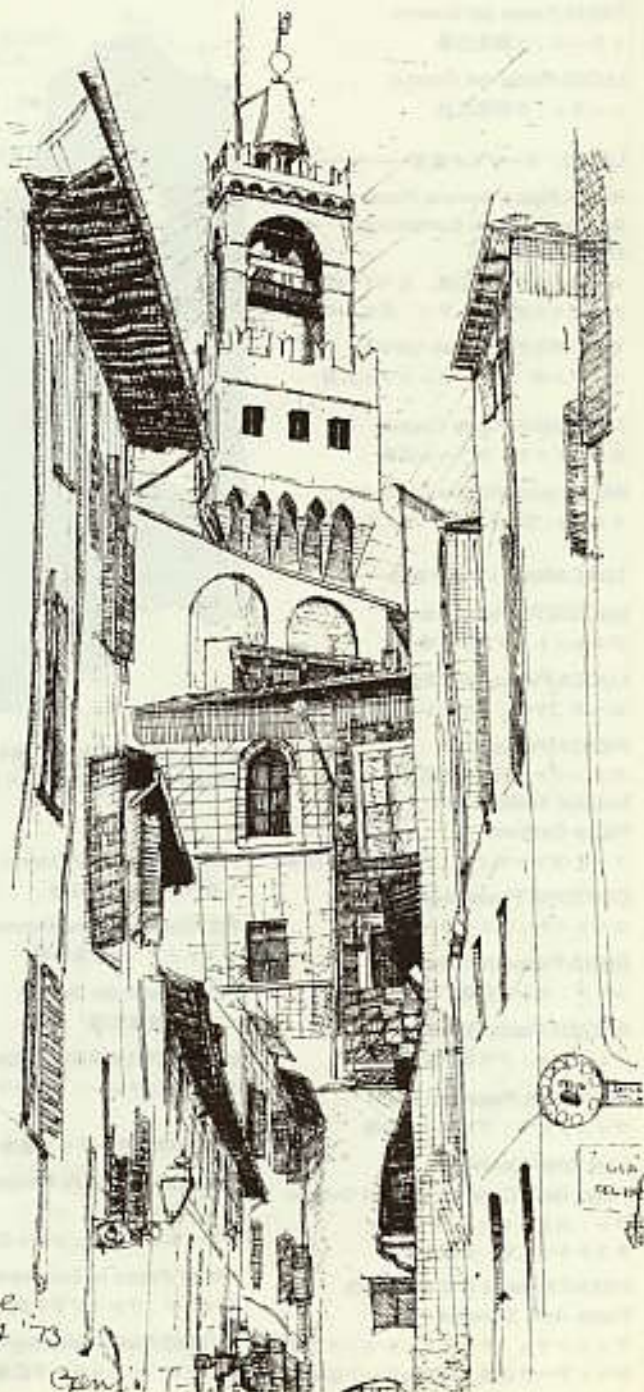
広場には、広場を包み込む建築物への影響と、一つの建築物または建築群が、広場におよぼす影響があるので、その高低差、形態、オリエンテーション、ディメンション、ヴィスタなどのさまざまな要素と広場との相互依存関係の理解を確立することが必要である。

イタリアの多くの都市を見て回って感じたことは、各々の都市の特性は、人が集まり、利用され、人と人との触れ合いがおきる日常生活の場、つまり広場と街路との相互関係からうまれる場として表現されている。都市のシンボル・スペースとなっている広場で、家の中では得られない共同体意識が強く表現される。

町の発生と同時に広場が生まれ、また政治、経済、宗教の変化による都市の成長や縮小に伴って、広場が展開し、都市と広場とが一体化した都市構造となっている。したがって、広場を理解することが、都市の本質を解明する一つの方法ではないかと思う。

しかし、日本で必要とされることは、人を集めるためにどのような道具だてを考えだすが、また人を集めるためにいかに広場を構成し、デザインを考えるかということよりも、広場と建築物との相互関係の理解によって、周囲の環境をいかによりよくするかという、内から外への環境づくりが必要であると思う。人が集まり、コミュニケーションがうまれることは結果にすぎないと考えられる。

したがって、日本では、イタリアのように都市の核としての広場ではなく、広場とこれを取り囲む建築群を、調和のとれた美しさとして捉えることが必要とされると思われる。こうした捉え方によって、ヒューマンな建築空間がイメージされ、おもしろいデザイン・ストラクチャがうまれると思う。



イタリアの町と広場の分布図 MAP OF ITALIAN TOWNS AND PIAZZA

SICILIA / シチリア地方

- PALERMO: Piazza Quattro Canti
パレルモ: クワットロ・カンティ広場
- ERICE: Piazza Umberto I
エリーチェ: ウンベルト一世広場

CAMPAGNA / キャンパーニャ地方

- NAPOLI: Piazza del Plebiscito
ナポリ: プレビシット広場
- ISOLA DI CAPRI: Piazza Umberto I
カプリ島: ウンベルト一世広場
- AMALFI: Piazza del Duomo
アマルフィ: 大聖堂広場

PUGLIA / プーリア地方

- TRANI: Piazza del Duomo
トラーニ: 大聖堂広場
- LECCE: Piazza del Duomo
レッチェ: 大聖堂広場

LAZIO / ラーツィオ地方

- ROMA: Piazza Navona, Piazza di Spagna, Piazza San Pietro
ローマ: ナヴォーナ広場, スペイン広場, カンピドリオ広場, サン・ピエトロ広場
- VITERBO: Piazza San Lorenzo
ヴィテルボ: サン・ロレンツォ広場
- TARQUINIA: Piazza Cavour
タルクイニア: カヴール広場
- RIETI: Piazza Vittorio Emanuele
リエティ: ヴィットリオ・エマヌエレ広場

TOSCANA / トスカナ地方

- GROSSETO: Piazza Dante
グロセット: ダンテ広場
- LUCCA: Piazza San Michele
ルッカ: サン・ミケーレ広場
- PIENZA: Piazza Pio II
ピエンツァ: ピオ二世広場
- MASSA MARITTIMA: Piazza Garibaldi
マッサ・マリッティマ: ガリバルディ広場
- CORTONA: Piazza Signarelli
コルトーナ: シニョレリ広場
- SIENA: Piazza di Campo
シエナ: カンポ広場
- AREZZO: Piazza Grande
アレツォ: グランデ広場
- VOLTERRA: Piazza dei Priori
ヴォルテッラ: プリオール広場
- SAN GIMIGNANO: Piazza della Cisterna and del Duomo
サン・ジミニャーノ: チステルナ広場, 大聖堂広場
- FIRENZE: Piazza S.S. Annunziata, Piazza della Signoria
フィレンツェ: サンティッシマ・アンヌンツィアータ広場, シニョリア広場



番号はp. 99-p. 103の町の番号を示す。
Numbers indicate towns on p. 99-p. 103.

- PRATO: Piazza del Duomo
プラート: 大聖堂広場
- PISTOIA: Piazza del Duomo
ピストイア: 大聖堂広場
- PISA: Piazza del Duomo
ピザ: 大聖堂広場
- MONTEPULCIANO: Piazza Grande
モンテプルチャーノ: グランデ広場
- UMBRIA / ウンブリア地方
- PERUGIA: Piazza IV Novembre
ペルージャ: クワットロ・ノヴェンブレ広場
- ASSISI: Piazza di San Francesco
アッシジ: サン・フランチェスコ広場
- GUBBIO: Piazza della Signoria
グッビオ: シニョリア広場

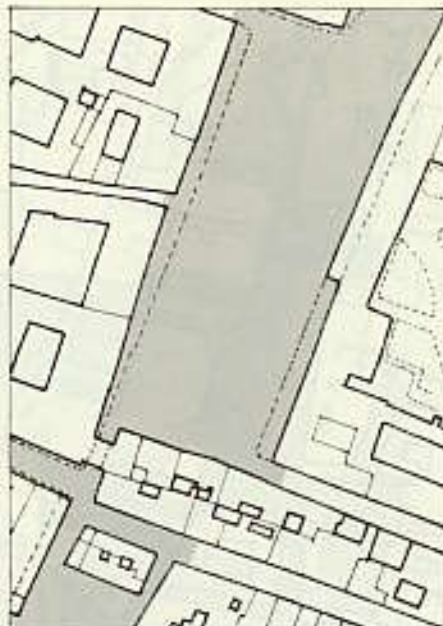
- FOLIGNO: Piazza del Duomo
フォリーニョ: 大聖堂広場
- BEVAGNA: Piazza Silvestri
ベヴァーニャ: シルベストリ広場
- ORVIETO: Piazza del Duomo
オリヴィエート: 大聖堂広場
- SPOLETO: Piazza del Duomo
スポレート: 大聖堂広場
- TODI: Piazza del Popolo
トーディ: ポポロ広場
- MARCHE / マルケ地方
- ASCOLI PICENO: Piazza del Popolo
アスコリ・ピチエーノ: ポポロ広場
- FABRIANO: Piazza del Comune
ファブリアーノ: コムーネ広場
- LORETO: Piazza della Madonna
ロレート: マドンナ広場

- EMILIA-ROMAGNA / エミリア=ロマーニャ地方
- BOLOGNA: Piazza Maggiore
ボローニャ: マッジョーレ広場
- PARMA: Piazza del Duomo
パルマ大聖堂広場
- PIACENZA: Piazza dei Cavalli
ピアチェンツァ: カヴァッリ広場
- CASTELL'ARQUATO: Piazza Matteotti
カスツアルクワート: マッテオッティ広場
- LIGURIA / リグリア地方
- GENOVA: Piazza San Matteo
ジェノヴァ: サン・マッテオ広場
- VENETO / ヴェネト地方
- VERONA: Piazza d'Erbe
ヴェローナ: エルベ広場
- VICENZA: Piazza dei Signori
ヴィチエンツァ: シニョーリ広場
- TREVISO: Piazza dei Signori
トレヴィーゾ: シニョーリ広場
- VENEZIA: Piazza San Marco
ヴェネツィア: サン・マルコ広場
- TORCELLO: Piazza di Torcello
トルチェッロ: トルチェッロ広場
- BELLUNO: Piazza del Duomo
ベッルーノ: 大聖堂広場
- FELTRE: Piazza Maggiore
フェルトレ: マッジョーレ広場
- FRIULI-VENEZIA GIULIA / フリウリー=ヴェネツィア=ジュリア地方
- UDINE: Piazza della Libertà
ウディネ: リベルタ広場

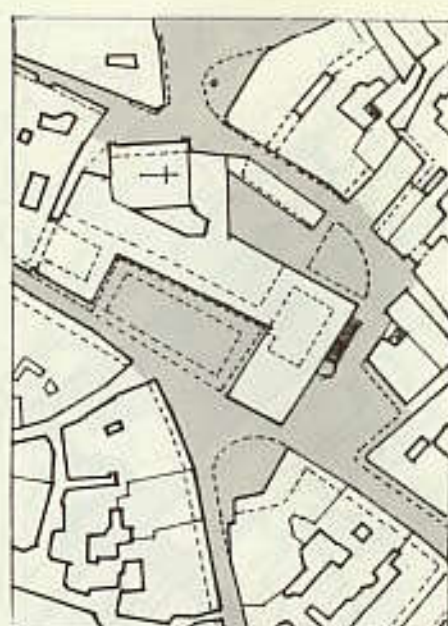
- LOMBARDIA / ロンバルディア地方
- MIRANO: Piazza del Duomo
ミラノ大聖堂広場
- VIGEVANO: Piazza Ducale
ヴィジェヴァノ: ドゥカール広場
- LODI: Piazza del Comune
ローディ: コムーネ広場
- MANTOVA: Piazza d'Erbe etc.
マントヴァ: エルベ広場他
- BERGAMO: Piazza Vecchia and del Duomo
ベルガモ: ヴェッキア広場, 大聖堂広場
- CREMONA: Piazza del Comune
クレモナ: コムーネ広場



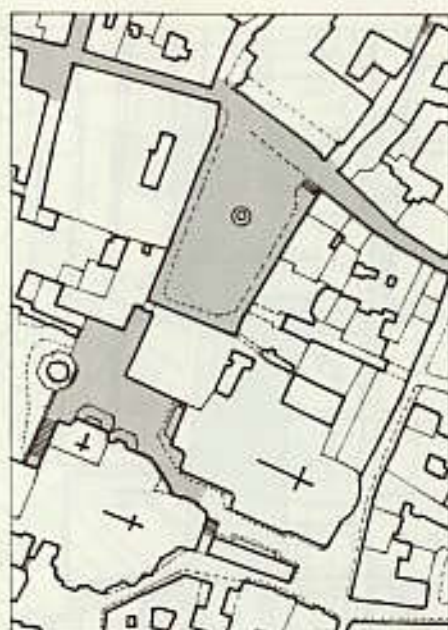
1-TORCELLO / トルチェッロ
Piazza di Torcello



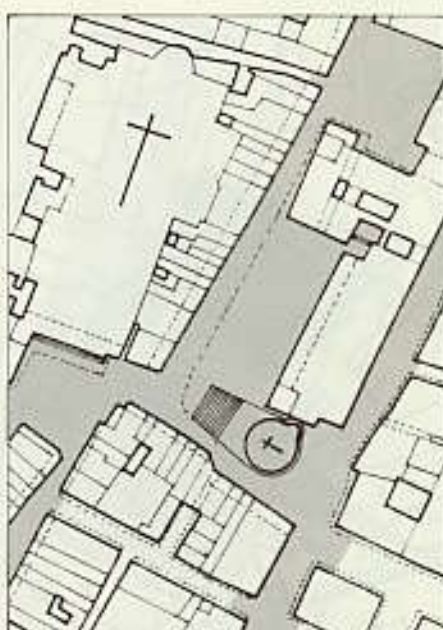
3-MANTOVA / マントヴァ
Piazza Mantegna, d'Erbe Erbe and del Duomo



4-TREVISO / トレヴィーゾ
Piazza dei Signori, Indipenza and Monte di Pietà



2-BERGAMO / ベルガモ
Piazza Vecchia and del Duomo



5-ISOLA DI CAPRI / カプリ島
Piazza Umberto I

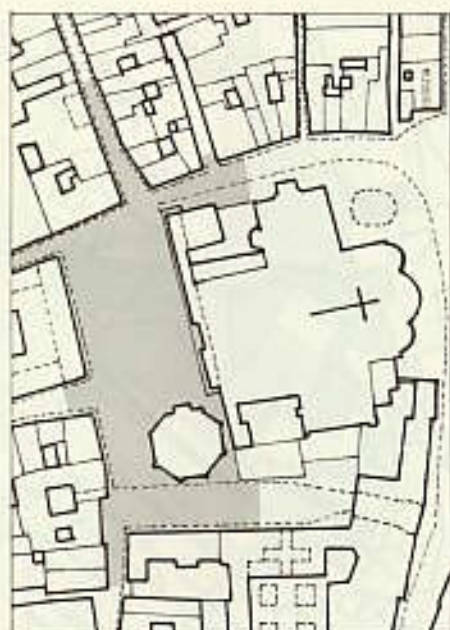
広場

私たちにあって広場とは何だろうか。世界中の誰れもが広場という言葉を取り扱っている。特にイタリアでは、「何時に何広場のパールの前で会おう」「何広場の教会の前の階段で……」というように地理的に明確にする生活の一つの材料としても存在している。また毎日の生活にとって、切り離せない生活の場、憩いの場となっている。

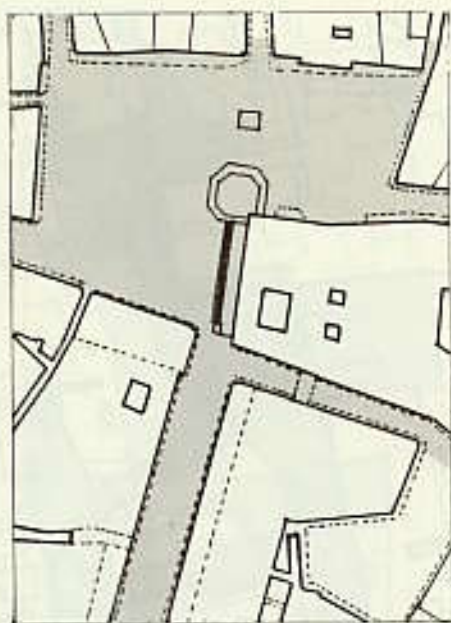
Piazza, Piazzetta, Square, Place, Plaza, Circle などというように数多くの言葉が、何気なく、世界中いたるところで使われている。広場でゲームを楽しみ、広場で展示し、広場でお祭りをし、広場で友達、恋人との待ち合わせ、広場での市場、そして広場でコーヒーを飲みながら時を過ごすなど、このようにただ広くて、空っぽの場が、非常に多くの

可能性と機能性を持ち、日常生活の中に溶け込み、町、都市の重要な位置を占めている。広場の本当の意味は何だろうか、そこで生活を営む人びとにとっては、改まって論議したり定義づけたりする必要もないことだろう。誰も広場が何であるか？と考えたりもしないし、尋ねもしない。彼らにとって広場は、毎日のインプレッションである。それだけで十分な解答といえる。

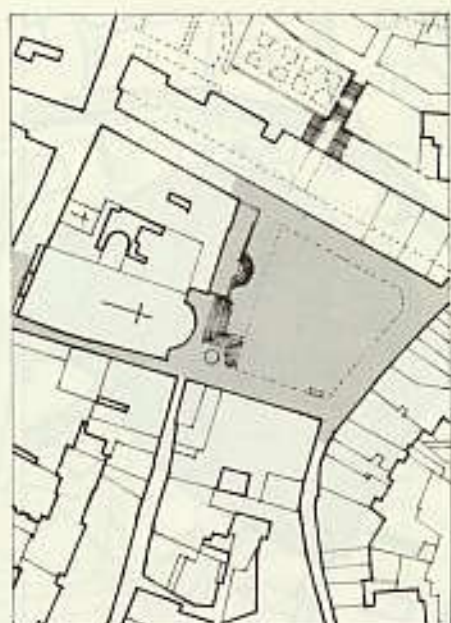
それではここで、建築家の観点から、広場とは何であるかを考えてみる必要があると思う。建築用語辞典には、次のように定義されている。「交通、集会、美観、市場などの為に設けられた公共的な空地」。一方、イタリアの建築と都市計画を取り扱った用語辞典には、「Uno spazio libero, circondato prevalentemente da edifici che assume funzione



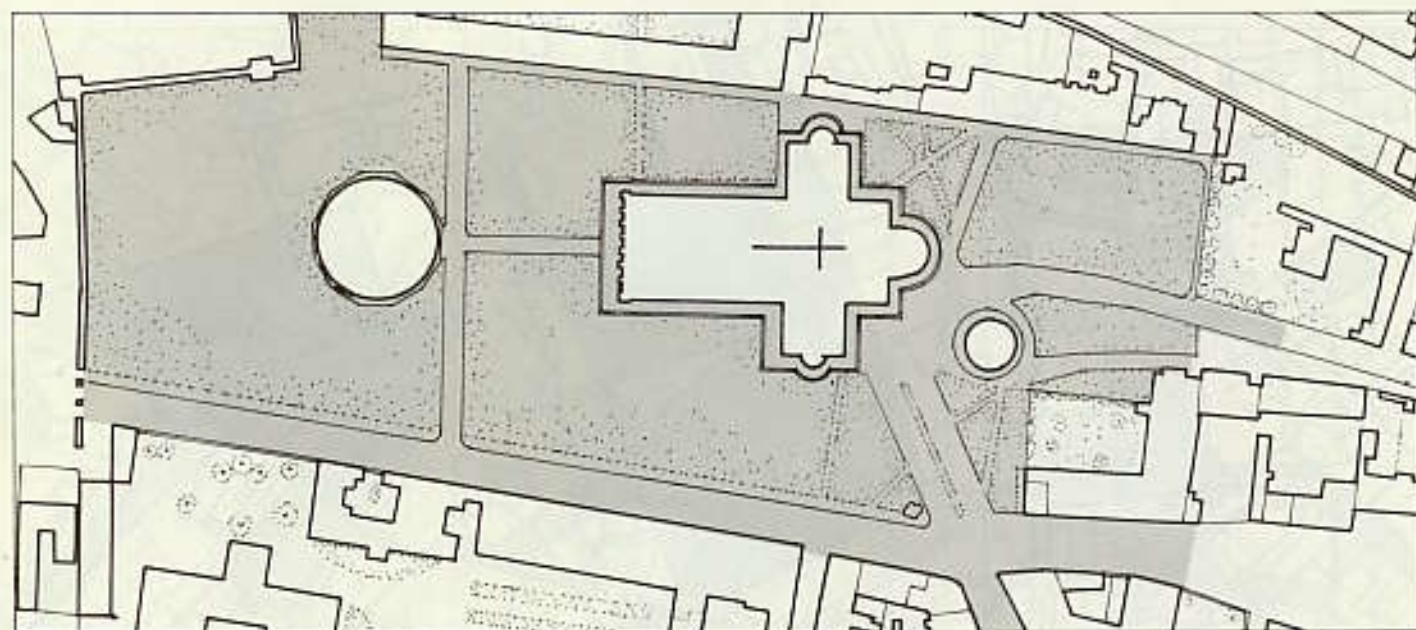
6—CREMONA / クレモナ
Piazza Cavour



7—FIRENZE / フィレンツェ
Piazza della Signoria



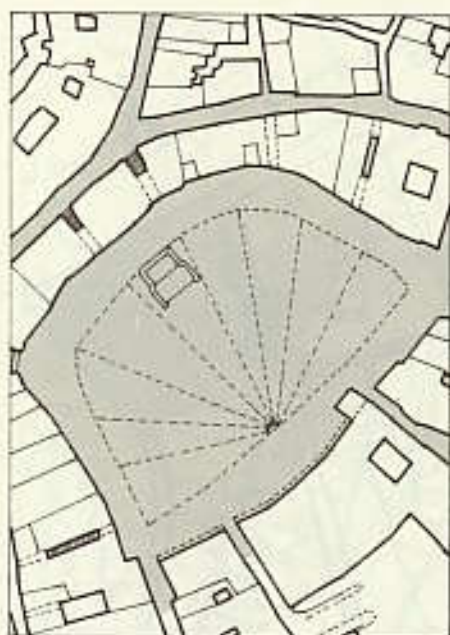
8—AREZZO / アレッツォ
Piazza Grande



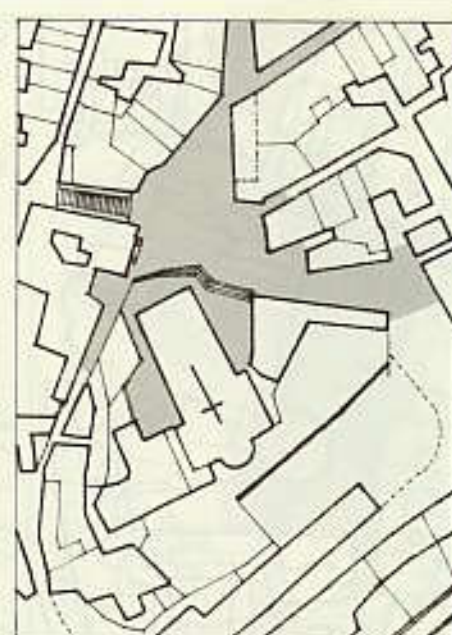
9—PISA / ピサ
Piazza del Duomo

diverse* (さまざまな機能をもつ建物によって、完全に囲まれたオープン・スペース)と書かれている。ここで、日本とイタリアの両国間には、広場と建物の相互作用について大きな基本的概念の相違が見られる。日本では、空地ならば広場となり得ると解釈され、イタリアでは、広場を建物と結びつけ、範囲をせばめた解釈がなされている。それでは、私たちは、広場をどのように考え、理解を深めたらよいのだろうか。もし、あなたが広場を公共的な場として望むならば、まず広場は、オープン・スペースでなければならない。つまり、市場、遊び、展示などのような何らかの機能性を与える場である。限りなく広がる場におかれたときのとまどいからくる恐怖感を与えたり、狭くて圧迫感を与えるような小さな空間ではない、適度な広さが必要となる。そこで、イタリアの代表

的な広場の具体的な広さの例として、ピエンツァのピオ二世の広場(約120平方メートル)からローマのサン・ピエトロ広場(約3万7500平方メートル)までの広さ——これより広くなると、広場は公園となる可能性がある——を妥当と考えることにする。そして、常に何らかの機能性を与えるためには、車が侵入できないこと。さらに、この「広場の研究」で取り扱った広場にもみられるように、何らかの要素、道具立てによって囲まれた中庭のような場であることである。こうした制限された広場として成り立たせるためには、植木、壁、彫刻、建物、ベンチ、オペリスクなどのような人工的な要素の集合体と、河川、山、森林、池、谷、崖などの地勢・地理的条件からなる自然的要素の集合体が関係する。つまり、これらの要因と主要建築物とは、建築空間を創り出すうえで、つねに密接不



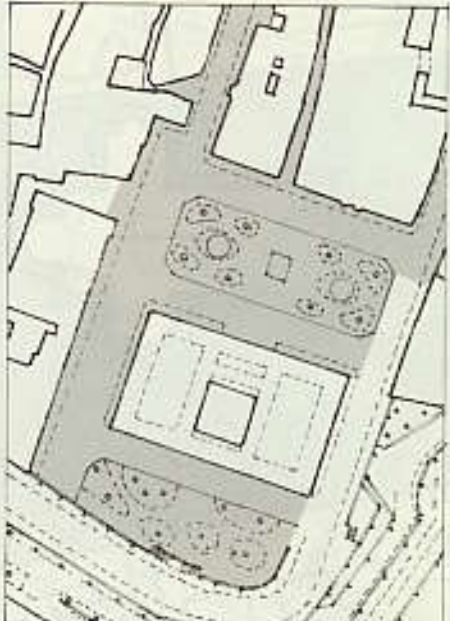
10-SIENA / シエナ
Piazza del Campo



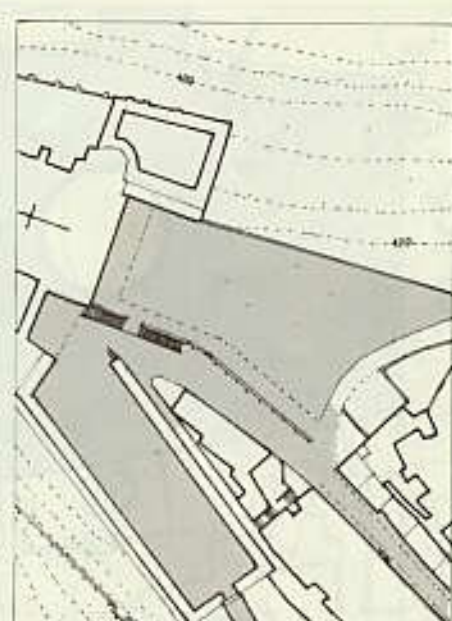
13-MASSA MARITTIMA / マッサ・マリッティマ
Piazza Garibaldi



11-SAN GIMIGNANO / サン・ジミニャーノ
Piazza della Cisterna and del Duomo



12-PERUGIA / ペルージャ
Piazza Danti and IV Novembre



14-ASSISI / アッシジ
Piazza Sup. and Inf. di S. Francesco

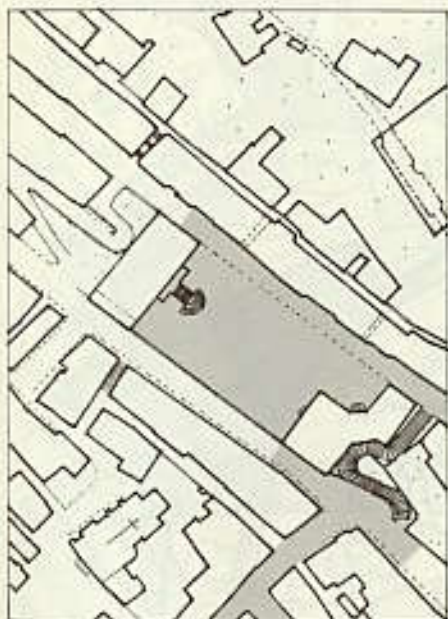
離の関係にある。そこで、基本概念として、広場は、車に進入されない敷地をもち、自然的要因と物理的要因によって制限された、ある一定の広さを確保したオープンなパブリック・スペースであると考えられる。

日本の広場

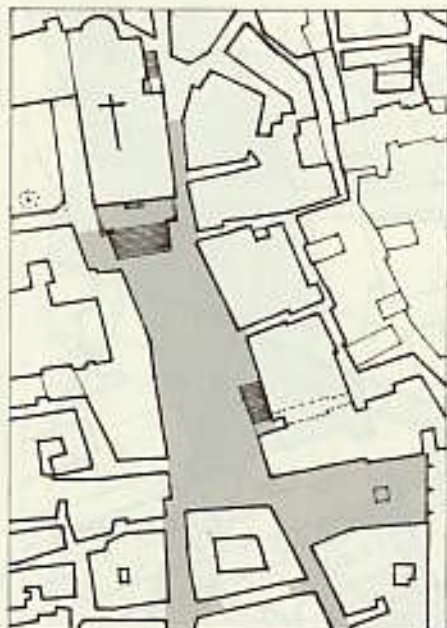
歴史的に、日本では都市における一般市民の生活の場は、目的機能性の建物、街路、家族の住む住空間の三者の連結で構成されていた。すなわち、仕事や買物をするための目的機能性の建物、各家は障子やふすまでつながっているため、個人の独立した生活ができにくい、家族の住む住空間と、その住空間の延長である街路によって都市が構成されていた。一方ヨーロッパでは、

ギリシア時代のアゴラとローマ時代のフォーロ・ロマーノが特定の階級を中心とした人たちの生活の場として利用せられ、中世になると、ヨーロッパで創られた広場が、階級に差別なく、一般市民の生活の中に融け込んだ公共的、社会的空間として用いられるようになった。しかし日本では、生活の中に融け込んだ市場、祭りなど人と人との触れ合いの場としての広場のかわりに、おもに街路が利用された。現在、このような街路は交通の手段の自動車のための道路と化した。

「重要なのは交通ではなく人びとの生活である」とイギリスの建築家オー・クロスビーが著書「City Sense」でいっている。交通が完備されれば、都市の発展へとつながるが、人びとの生活の立場を軽視する計画がなされているため、人びとは自動車に気を配りながら行動し、道路は完



15-GUBBIO / グッビオ
Piazza della Signoria



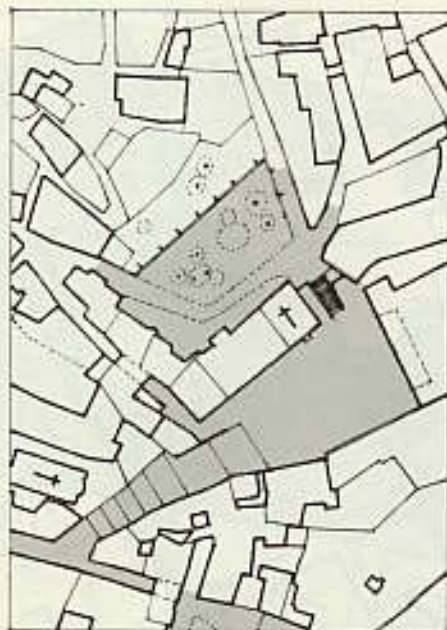
17-TODI / トーディ
Piazza del Popolo



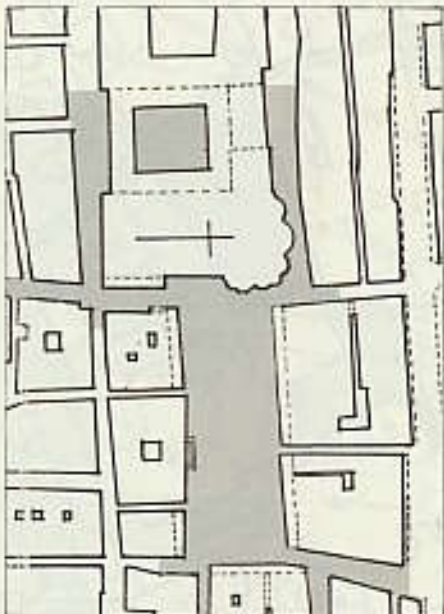
19-PIENZA / ビエンツァ
Piazza Pio II



16-BEVAGNA / ベヴァーニャ
Piazza Silvestri



18-SPOLETO / スポレート
Piazza del Duomo



20-ASCOLI PICENO / アスコリ・ピチーノ
Piazza del Popolo

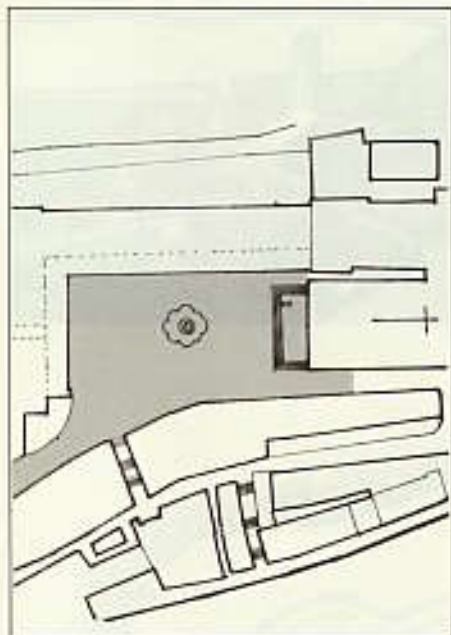
全に車の支配下になろうとしている。

このように、人間社会の領域が機械によって占有され、機械社会中心へと変化してゆく。そこで人びとは、家の中に閉じ籠り、閉鎖社会を築くことになり、地獄的ないしは自然的な開放的環境から遠ざかってゆくことになる。こうして、人間社会で必要とされる共同体意識がもろくも崩れることになる。

こうした状況も思案し、人間の生活、また余暇を楽しむためのパブリック・スペースの必要性から、ヨーロッパに散在する広場の性格、本質について今まで幾度も論議されてきた。1951年のイギリスのCIAMの第8回会議の主題となった「都市の核」を契機として、都市のあり方が考え直されたことがある。ここで「核」という言葉の意味づけは、ゲー

ディオンの著書『現代建築の発展』によれば、MARSグループによって、「コミュニティをただ個人の集合ではなく、コミュニティとする要素」と定義されている。しかし、磯崎新氏の著書『空間へ』からプロットすると、「個から群化する媒体としての核、広場を理解し、それを創りさえすれば、コミュニティ生活が再建されると考えられた単純さが、一般化し消失の原因になったらしい」と書かれている。それは、また同時に、結果をあまりにも早く求めすぎた傾向があったからではないだろうか。

ヨーロッパの広場を歴史的観点からみると、世界でもっとも知られているヴェネツィアのサン・マルコ広場でさえ、1000年の年月がかかっており、フィレンツェのシニョリーア広場も徐々に建物の増築、彫刻の設



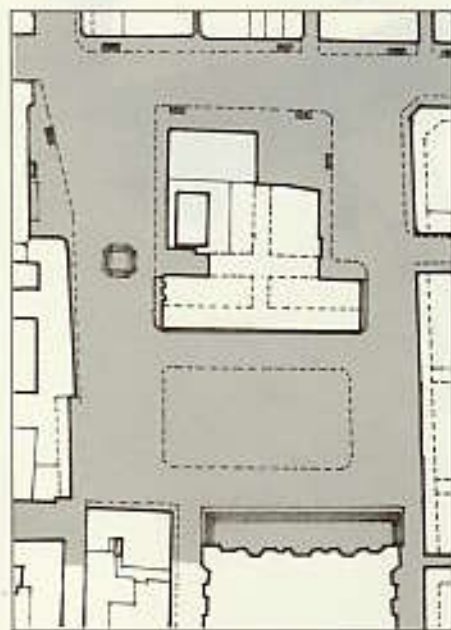
21-LORETO / ロレート
Piazza della Madonna



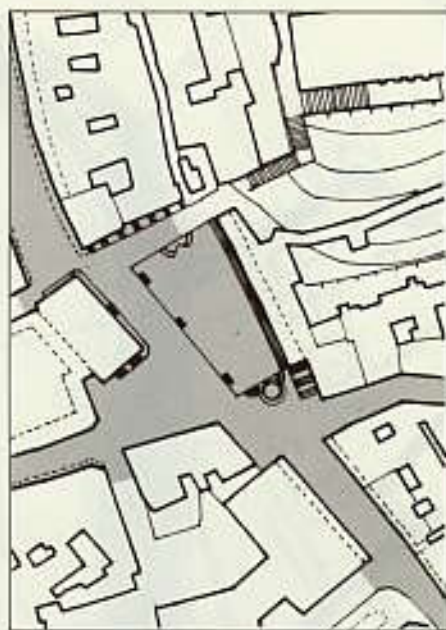
23-VIGEVANO / ヴィジューヴァノ
Piazza Ducale



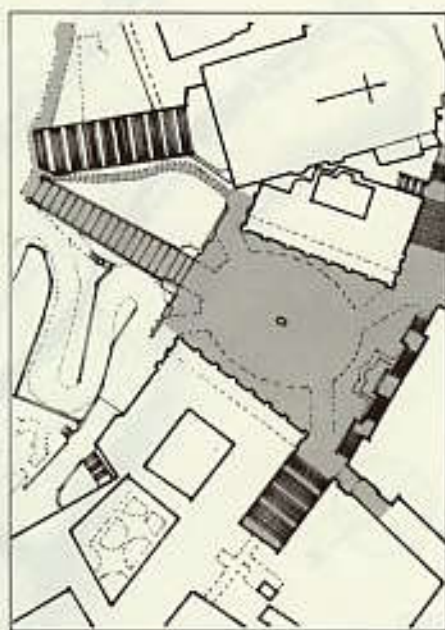
25-FELTRE / フェルトレ
Piazza Maggiore



22-BOLOGNA / ボローニャ
Piazza Maggiore



24-UDINE / ウディネ
Piazza della Libertà

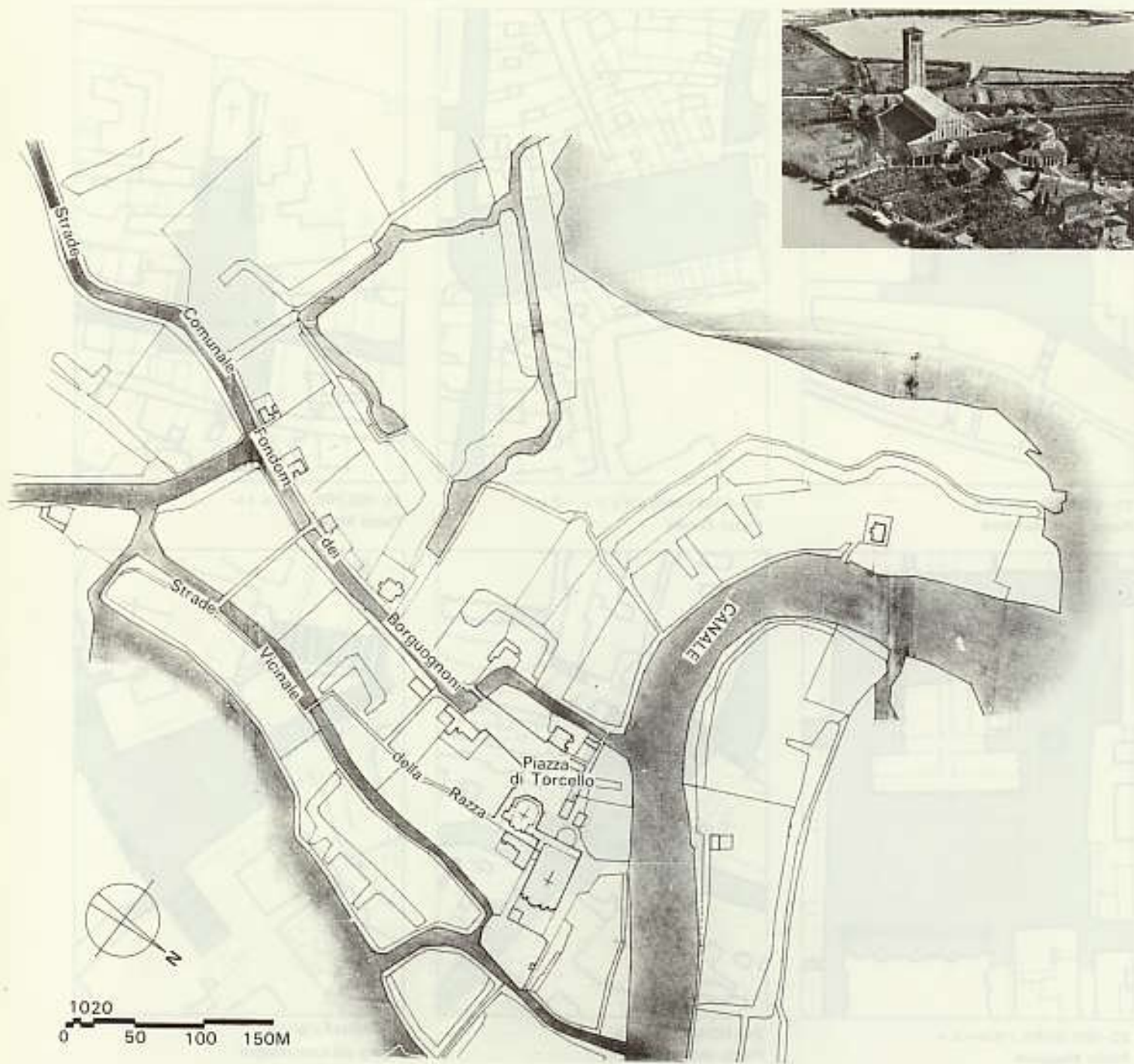


26-ROMA / ローマ
Piazza del Campidoglio

置が行なわれ、現在のような美しい景観を示しているわけである。

日本の雑然と密集した都市の中での広場の存在は、日本の広場として、より重要な意義と必要性があると思う。中世ヨーロッパにみられる都市において、パブリックとプライベートの関係が、広場と室との相対性で表現されている。それは、共同社会の意識は、誰にも犯されない個人の場意識との同一性が認められて、はじめて成立すると考えられるからである。日本では、パブリック・スペースは街路であり、プライベート・スペースであるべき室（住空間）も家族を単位としたスペースでしかなかった。そして現代になり、アメリカ、ヨーロッパ文化が広がり、伝統的なものと現代的なものとの混然とした社会構成が行なわれ、核家族化する傾向につれて、住空間にもプライベートの占めるウェイトが

大きくなっていると考えられる。しかし一方において、街路などのパブリック・スペースは過密社会のため、広場の代行としての機能が失われようとしている。またパブリック・スペースの必要性から、残部空間は広場として取り扱われている。つまり、数地に建物をデザインし、その残った部分を何々広場と名づけ、広場自体を商品化あるいはモニュメントとしている。このようなことが続けられると、いたるところに、無計画にオープン・スペースがつくられ、これらが都市のくぼ地となり、統一性の失われた都市となる危険性がある。したがって、パブリック・スペースの本来の意味と存在の意義が改めて論ぜられる必要があると思われる。



Piazza di Torcello —トルチェッロ広場

広場がどこから始まるか分からないので、広さは明確ではない。そこで、橋・樹木・運河などの自然条件と建築群全体とがうまく融合され、視野の中に入る位置を広場の始点とすると、広場のほうに延びた橋がこれに相当する。

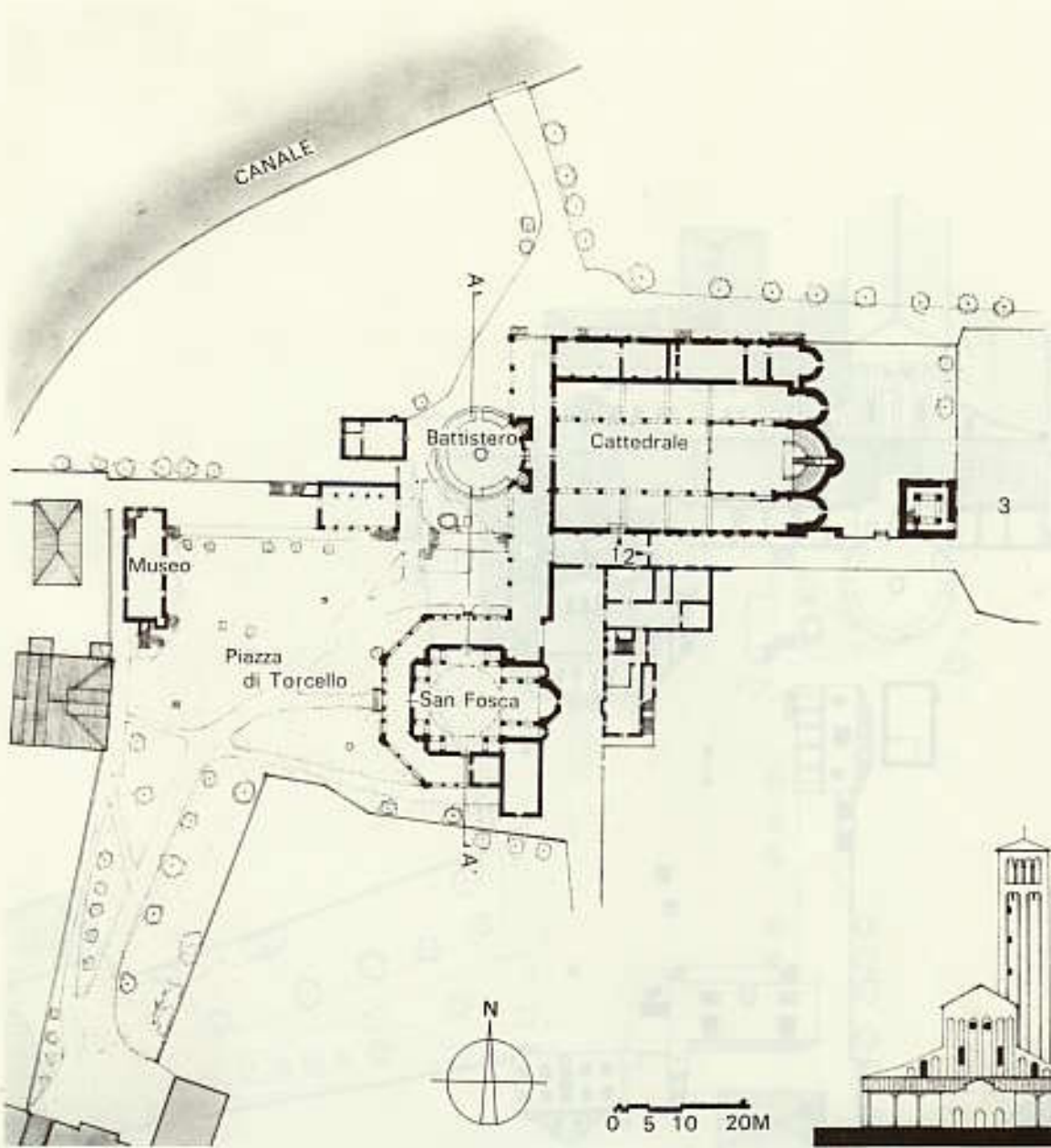
まず始点の橋の上に立つ芝生によって縁どられ、広場の奥へと続くカーブした道とその奥にある低い建物がみられる。道沿いにある樹木のため建物のファサードは見られず、塔のある建物のマッサが木々の間から望まれる。橋をくんだり土庫を売る屋台を見ながら先に進みカーブした道にさしかかると、三つの建物（カテドラーレ、サン・フィスカ教会、バティスタロの前の建物）のマッサが現われる。これらの建物の構成には、次のような特徴がみられる。

- 1—カテドラーレとサン・フィスカ教会がアプローチの軸線に対して偏向し、平行して建ち並ぶ。
- 2—カテドラーレはサン・フィスカ教会より下がって位置する。
- 3—カテドラーレとサン・フィスカ教会は、同じ5メートルの高さの突き出た軒で繋り、空間の連続性をもつ。
- 4—バティスタロの前の建物（グランド・レベルに道跡が置かれている）によって奥の広がり制限されている。

これらの四点によって、引き込まれるように自然に、カテドラーレの前に進んでゆく。この広場の、道跡が置かれた芝生に座って話している人は見られない。カテドラーレを見学した後、この後の原っぱで寝ころび、空想にふけったり、日向ぼっこをしたり、話しに花を咲かせている若者をよく見かける。

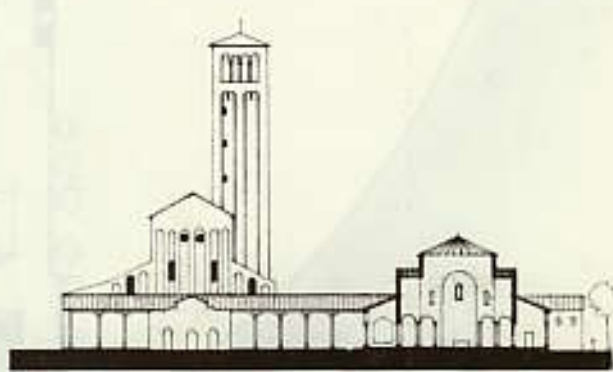
トルチェッロ島は、ヴェネツィアの海上、北東わずか10キロメートルのところにある。ヴェネツィアが繁栄する以前、452年にアッララ襲撃により本土から逃れてきた人びとが建設し、政治・宗教・商業においても、重要な町として栄えていたらしい。しかしこのことを現状から推測するのは難しい。まちは完全に破壊し、緑の沼沢地と化し、現在、トルチェッロ広場

の一角の建物（カテドラル、サン・フォスカの教会、邸宅など）だけが埋没を免れて残っている。したがってましが存在していた頃、このトルチェッロ広場と称されている空間が、どのような意図でつくられ、活用されていたかは定かではない。また現在、ましが存在しない以上、生活に寄与している一般的な広場としての機能も果たしていない。



平面図、Plan.

- 1—カテドラルの出入口。
 - 2—座っぱに通じる道。
 - 3—座っぱ。
- 1—Entrance to cathedral.
 - 2—Passage to field.
 - 3—Field.



A—A' 断面図、Section A—A'.



広場からカテドラル（中央）とサン・フォスカ教会（右）を見る。
View of cathedral (center) and San Fosca from piazza.



南側から美術館(左)を見る, View of museum (left) from south.



南東側から美術館(右)を見る, View of museum (right) from southwest.



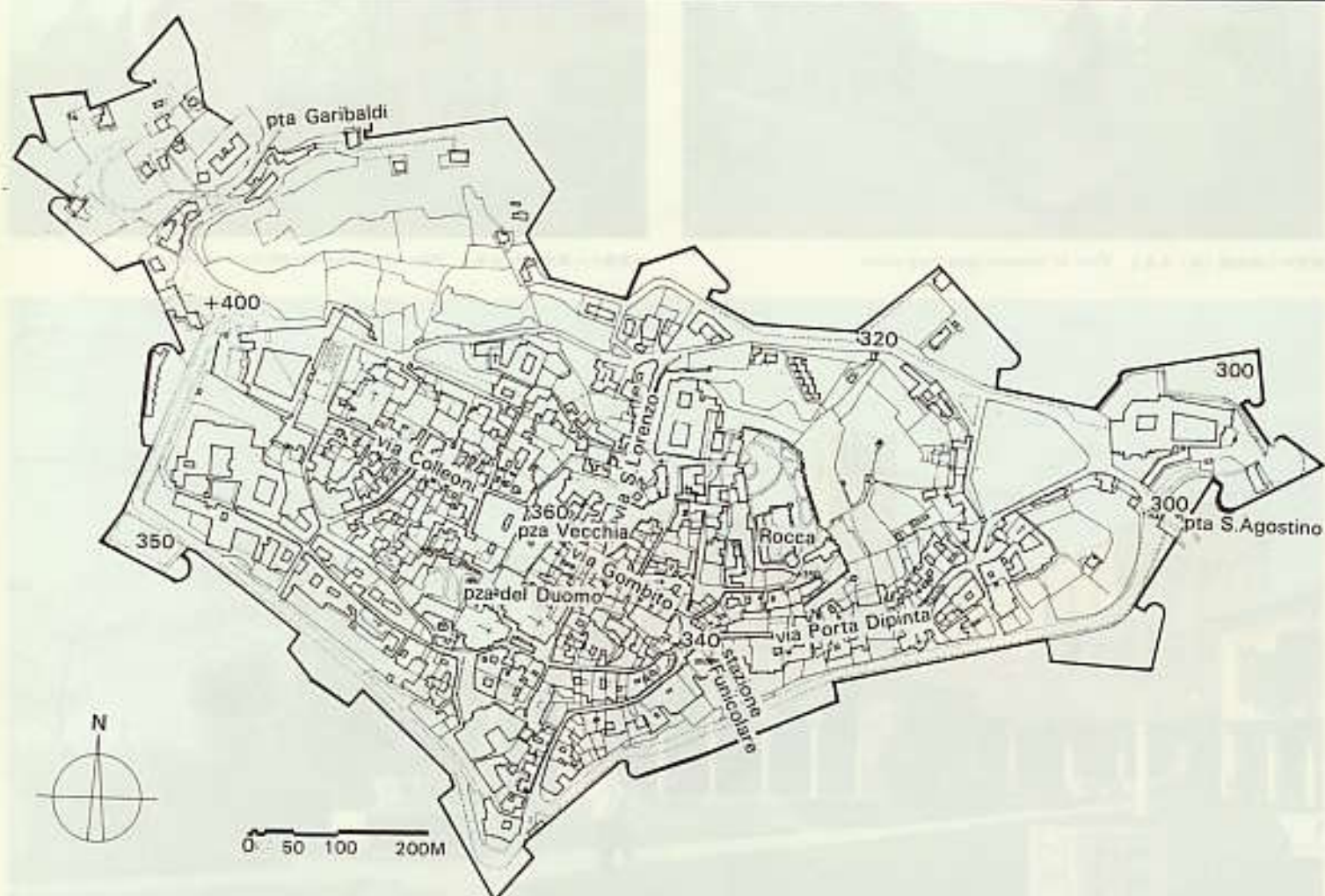
カテドラル(左)とサン・フォスカ教会(中央)を見る, View of cathedral (left) and San Fosca (center).



東側(カテドラル側)から見る, View from east (cathedral side).



東側(カテドラル側)から見る, View from east (cathedral side).



「上のまち」

「下のまち」が近代化される19世紀以前、「上のまち」は、ヴェッキア広場と大聖堂広場が商業、政治、および宗教の中心地であった。

主要街路からこれらの広場を望むとき、まず正面に建つパラッツォ・デッラ・ラジョーネの存在に気づくわけだが、これにより二つの広場の視覚的な繋りを閉ざし、人の流れの流動性を保持しながら、二つの違った機能の広場を関連づけている。一つは、政治と商業のためのヴェッキア広場、他の一つは、宗教のための大聖堂広場である。扶廊ホールで土産を売る屋台の出ていることもある。

Piazza Vecchia — ヴェッキア広場

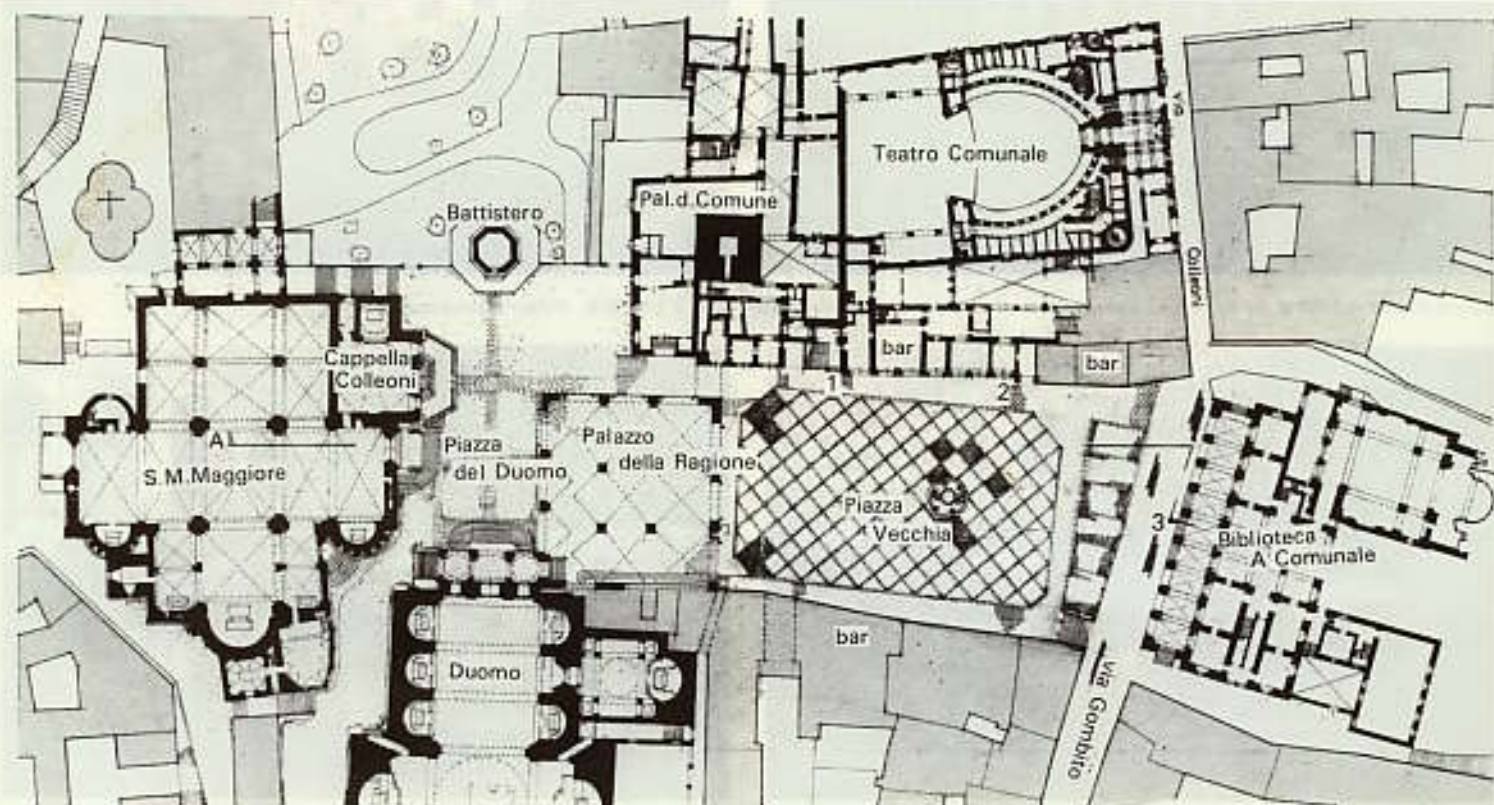
広場の中央部にある噴水は、1700年代のものであるが、中世の典型的な広場をつくり出している。広場全体を基準高13メートルに低くおさえ、正面のパラッツォ・デッラ・ラジョーネに風格を与えている。一方、ペーヴは石と煉瓦によって幾何学的なデザインが施されている。前方を見ると、パラッツォの掛面ホール越しに、強い光が射し込むのが見られ、自然と足は光に吸い込まれるように拱廊ホールをくぐる。

Piazza del Duomo — 大聖堂広場

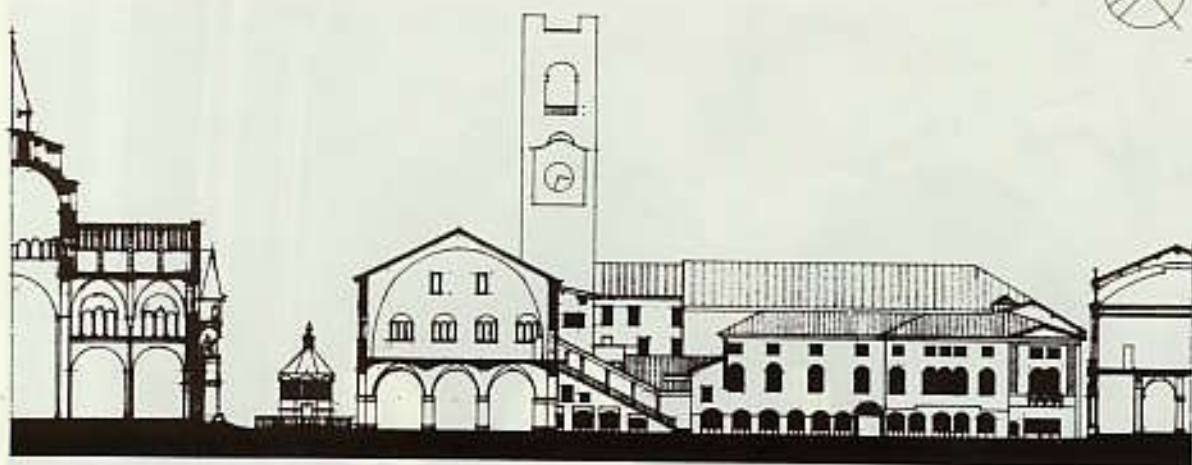
大聖堂、サンタ・マリーア・マッジョーレ教会、バルトロメオ・コッレオー

ロンバルディア平原の縁にあたるブレアルビのはじめの西西部を占めるベルガモは、丘にある「上のまち」(海拔368メートル)と「下のまち」(海拔249メートル)とに分けられる。下のまちは近代な都市として19世紀に形成され、現在ベルガモの政治経済の中心地となっている。上のまちは中世の面影が残り、北イタリア地方で美しい広場の一つとされるヴェッキア広場がある。

ここを訪れるには、下のまちの駅からバスで丘の麓に下り、ここから登山電車で登る。終着駅から、まちを二分するように走る狭くてなだらかなヴィア・ゴムベートを登り、300メートルで上に行くと、街路に平行し左側に広場が見られる。



平面図, Plan.



A-A断面図, Section A-A'



0 5 10 20 30M

- 1-市庁舎の出入口,
- 2-ベルガモ大学文学部の出入口,
- 3-市立図書館の出入口,

- 1-Entrance to city hall.
- 2-Entrance to the faculty of literature of Bergamo University.
- 3-Entrance to city library.

0 5 10 20M

この墓として建てられたカッペラ・コレオーニと八角形の礼拝堂によって大聖堂広場が構成されている。これら四つの建物はそれぞれ異なるファサードで、狭い空間(880平方メートル)のため圧迫感があるものの、西側の低い礼拝堂とその後方の廊でそれも解消される。この広場のペーヴは、歩道に用いられている石と歩きにくい玉石の組み合わせによって、人の流れを決めている。これらによって、この広場は宗教的な落ち着いた雰囲気の中にある。





ヴェッキア広場と市立図書館（中央）を見る, View of Piazza Vecchia and city library (center).



ヴェッキア広場, Piazza Vecchia square.



ヴェッキア広場, Piazza Vecchia.



ヴェッキア広場の噴水, Fountain in Piazza Vecchia.



大聖堂広場, Piazza del Duomo.



ヴェッキア広場から大聖堂広場を見も。View of Piazza del Duomo from Piazza Vecchia.



大聖堂広場への一般的なアプローチ。General approach to Piazza del Duomo.



サンタ・マリア・マッジョーレ寺院裏手の敷石。Pavament in the rear of S.M. Maggiore.

	MAIN BUILDINGS	URBAN LANDMARKS	STREET FURNITURE	PHYSICAL AMBIANCE	HUMAN AMBIANCE	DISTINCTION BETWEEN PIAZZA AND SURROUNDING STREETS	SPATIAL CHARACTER	THREE TYPES OF PEOPLE'S MOVEMENT IN PIAZZA
	LIBRARY	HOTEL	TRAFFIC SIGNS	WELL HEAD	PIEDONS	MARKET	MAIL	● STAGNATION ● STAGNATION
	THEATER	LIBRARY	STONE BENCHES	WELL HEAD	CAFE TABLES	PIEDONS	MAIL	
	TELEPHONE OFFICE	LIBRARY	STONE BENCHES	WELL HEAD	CAFE TABLES	PIEDONS	MAIL	
	BAPTISTRY	LIBRARY	STONE BENCHES	WELL HEAD	CAFE TABLES	PIEDONS	MAIL	
	BANK	LIBRARY	STONE BENCHES	WELL HEAD	CAFE TABLES	PIEDONS	MAIL	
	POST OFFICE	LIBRARY	STONE BENCHES	WELL HEAD	CAFE TABLES	PIEDONS	MAIL	
	OFFICE	LIBRARY	STONE BENCHES	WELL HEAD	CAFE TABLES	PIEDONS	MAIL	
	TOBACCO SHOP	LIBRARY	STONE BENCHES	WELL HEAD	CAFE TABLES	PIEDONS	MAIL	
	GENOVA	LIBRARY	STONE BENCHES	WELL HEAD	CAFE TABLES	PIEDONS	MAIL	
	HOUSING	LIBRARY	STONE BENCHES	WELL HEAD	CAFE TABLES	PIEDONS	MAIL	
	RESTAURANT	LIBRARY	STONE BENCHES	WELL HEAD	CAFE TABLES	PIEDONS	MAIL	
	CAFE	LIBRARY	STONE BENCHES	WELL HEAD	CAFE TABLES	PIEDONS	MAIL	
	MUSEUM	LIBRARY	STONE BENCHES	WELL HEAD	CAFE TABLES	PIEDONS	MAIL	
	SHOP	LIBRARY	STONE BENCHES	WELL HEAD	CAFE TABLES	PIEDONS	MAIL	
	TOWN HALL	LIBRARY	STONE BENCHES	WELL HEAD	CAFE TABLES	PIEDONS	MAIL	
	CHURCH	LIBRARY	STONE BENCHES	WELL HEAD	CAFE TABLES	PIEDONS	MAIL	
PIAZZA VECCHIA	●●●●●	●	●●	●●●●	●●	●●●●	●●●●	● STAGNATION
PIAZZA DEL DUOMO	●	●	●●	●●●●	●	●●●●	●●●●	● STAGNATION



広場群

マントヴァの中心は、南東—北西方向を軸とし、各々違った特性のみられる五つの連続した広場によって構成されている。南東方向のマルコーニ広場を始点とし、マンテーニャ広場、エルベ広場、プロレット広場、そして最後のソルザッロ広場である。

Piazza Marconi — マルコーニ広場

二本の主要道路が結合されてきた広場である。

Piazza Mantegna — マンテーニャ広場

アルベルティによるサン・アンドレア教会のための広場である。ここからのアプローチの軸線は、前方のパラッツォ・デッラ・ラジョーネに対し偏向している。

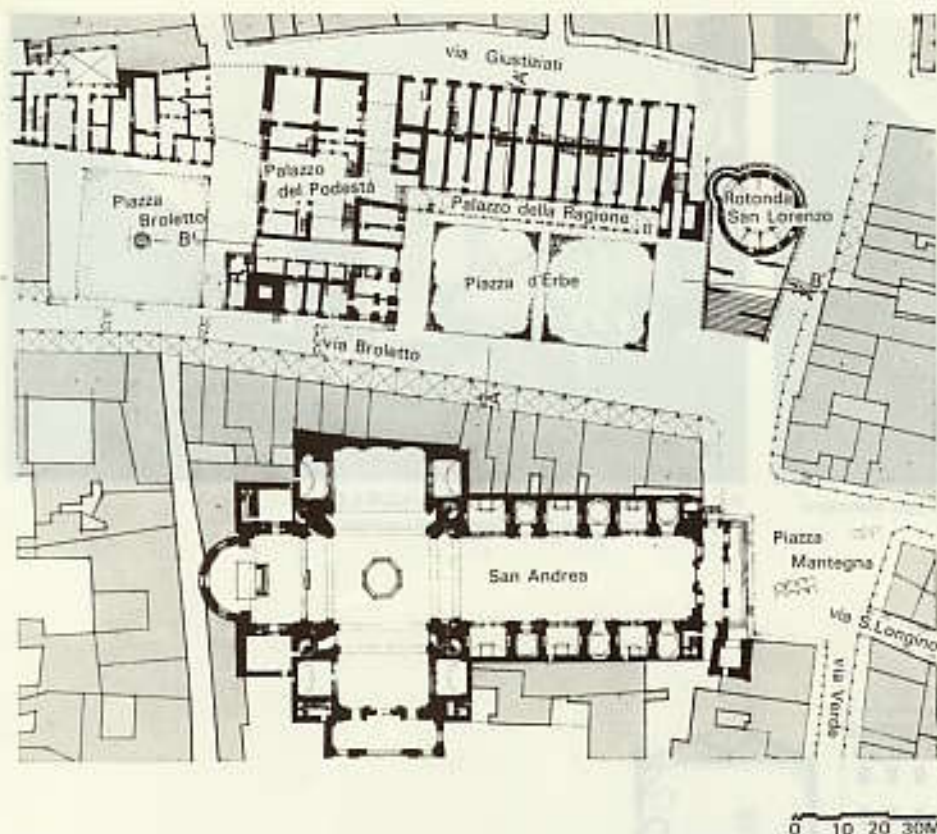
Piazza d'Erbe — エルベ広場

ヴィア・プロレットと平行したエルベ広場の周囲は、中世のパラッツォや15世紀の家屋に囲まれているが、グランド・レヴェルには商店が並び、市場のための広場として非常な賑わいをみせる。午前中は食品類の屋台が、パラッツォ・デッラ・ラジョーネと直角に並び、午後は衣服、食器、籠などの屋台が並ぶ。この広場には二つの特色がみられる。

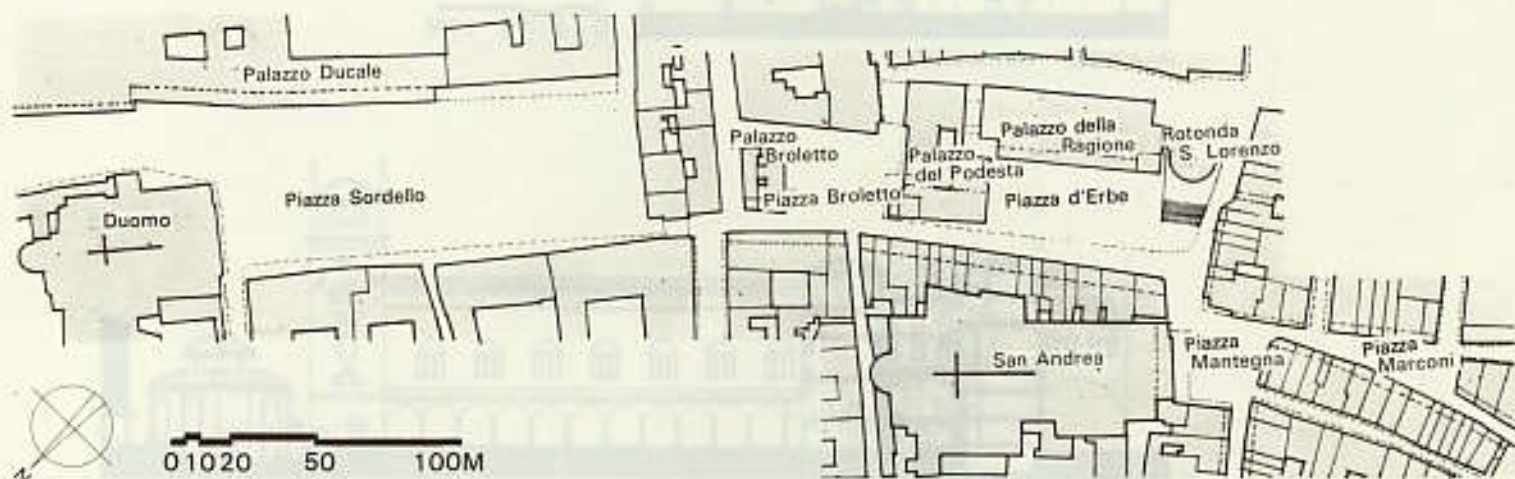
1—広場のほとんどを市場が占めているが、一部に宗教的な場が設けられ、

中央に築かれたマントヴァは、イタリア唯一の広大なロンバルディア平原のほぼ中央部にある。北、東、西側とはほぼ周りを湖に囲まれた地理的条件を利用した防衛都市で、官局にも力を注ぎ、都市として発展した。12世紀中頃より以前に、すでに政治的権威を具え、湖に近いソルデッロ広場を中心に、政治、経済、宗教および芸術的活動が行われ、早くから大

都市の一つであった。現在、このソルデッロ広場はパーキング化され、まちの中心はエルベ広場を核とした連続する五つの広場群によって構成されている。



平面図、Plan.



広場群、A chain of five Piazza.

これがまったく自然に表現されている。すなわち、パラッツォ・デッラ・ラジョーネに隣接している丸い造形が、1.5メートルレヴェル・ダウンしていることが、二つの異なった機能をもつ建物を自然のままに同じ広場に共存させ得た理由であろう。

2-店舗が並ぶ街並と広場が、ヴィア・プロレットをはさんで、相互関係にあり、見る、見られるといったアクティビティが生まれる。

Piazza Broletto — プロレット広場

エルベ広場と平行したこの広場は、小さく(20×35メートル)、三方向がパラッツォに囲まれ、昔は行政・管理のための広場であった。現在は、エルベ広場で午後には売られるものと同じものが、午前と午後には売られている。周囲が高い

建物なので日当たりが悪く、人の往来も少ない。この広場を現在と逆の位置におき、エルベ広場と視覚的なつながりを持たせるとよいと思う。

Piazza Sordello — ソルデッロ広場

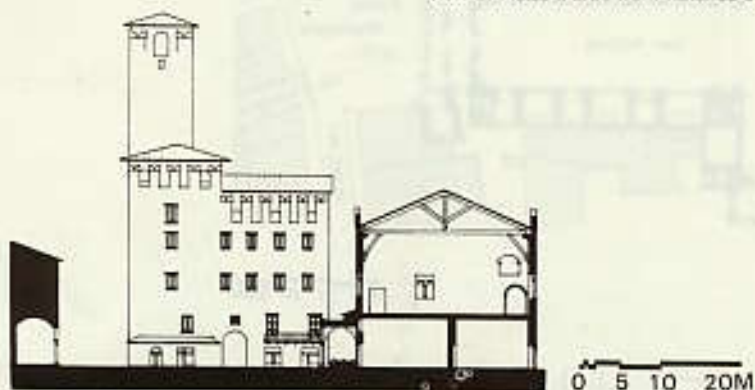
道路を横切ったパトレスの下を通ると、連続した五つの広場のピリオドとして、ソルデッロ広場が突如として、大きな漠然とした空間(50×150メートル)をみせる。この広場を中心にして栄えていた頃のままでの景観であるが、現在はパーキングとして利用されている。



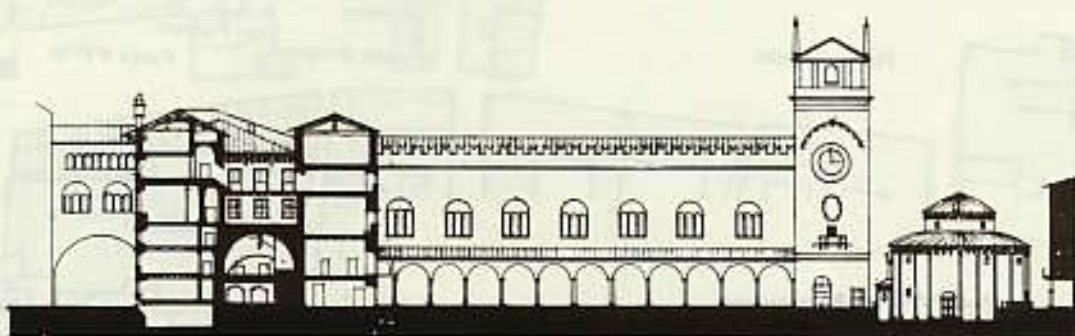
マンテニャ広場からエルベ広場を見る。View of Piazza d'Erbe from Piazza Mantegna.



ロトンダ・サン・ロレンツォの前からエルベ広場を見る。View of Piazza d'Erbe from Rotonda S. Lorenzo side.



A-A' 断面図。 Section A-A:



B-B' 断面図。 Section B-B:

	MAIN BUILDINGS	URBAN LANDMARKS	STREET FURNITURE	PHYSICAL AMBIANCE	HUMAN AMBIANCE	DISTINCTION BETWEEN PIAZZA AND SURROUNDING STREETS	SPATIAL CHARACTER	THREE TYPES OF PEOPLE'S MOVEMENT IN PIAZZA
PIAZZA MANTEGNA	●	●	●	●	●	●	●	SCATTERING
PIAZZA D'ERBE	●	●	●	●	●	●	●	CONFLUENCE
PIAZZA BROLETTO	●	●	●	●	●	●	●	CONFLUENCE
PIAZZA SORDELLO	●	●	●	●	●	●	●	CONFLUENCE



ブロレット広場の敷石, Pavement of Piazza Broletto.



ロトンダ側よりエルベ広場を見る, View of Piazza d'Erbe from the Rotonda side.



マルコーニ広場, Piazza Marconi.



ロトンダの前の敷石, Pavment in front of Rotonda.



ロトンダの前の敷石, Pavement in front of Rotonda.



Piazza Grande — グランデ広場

コルソ・イタリアから一步奥に引きこんだ所にあるグランデ広場は、イタリアでは珍しく傾斜地をそのまま利用している。ペーヴは、煉瓦色とうまく調和させ、白色のトラバーチンによって幾何学的な図形を描いている。東側は、ベランダのある中世の家屋が並び、北側には家具、顔縁づくりなどの職場が軒をつらねている。ロジッャ・デル・ヴァザーリが建っているのがみられる。

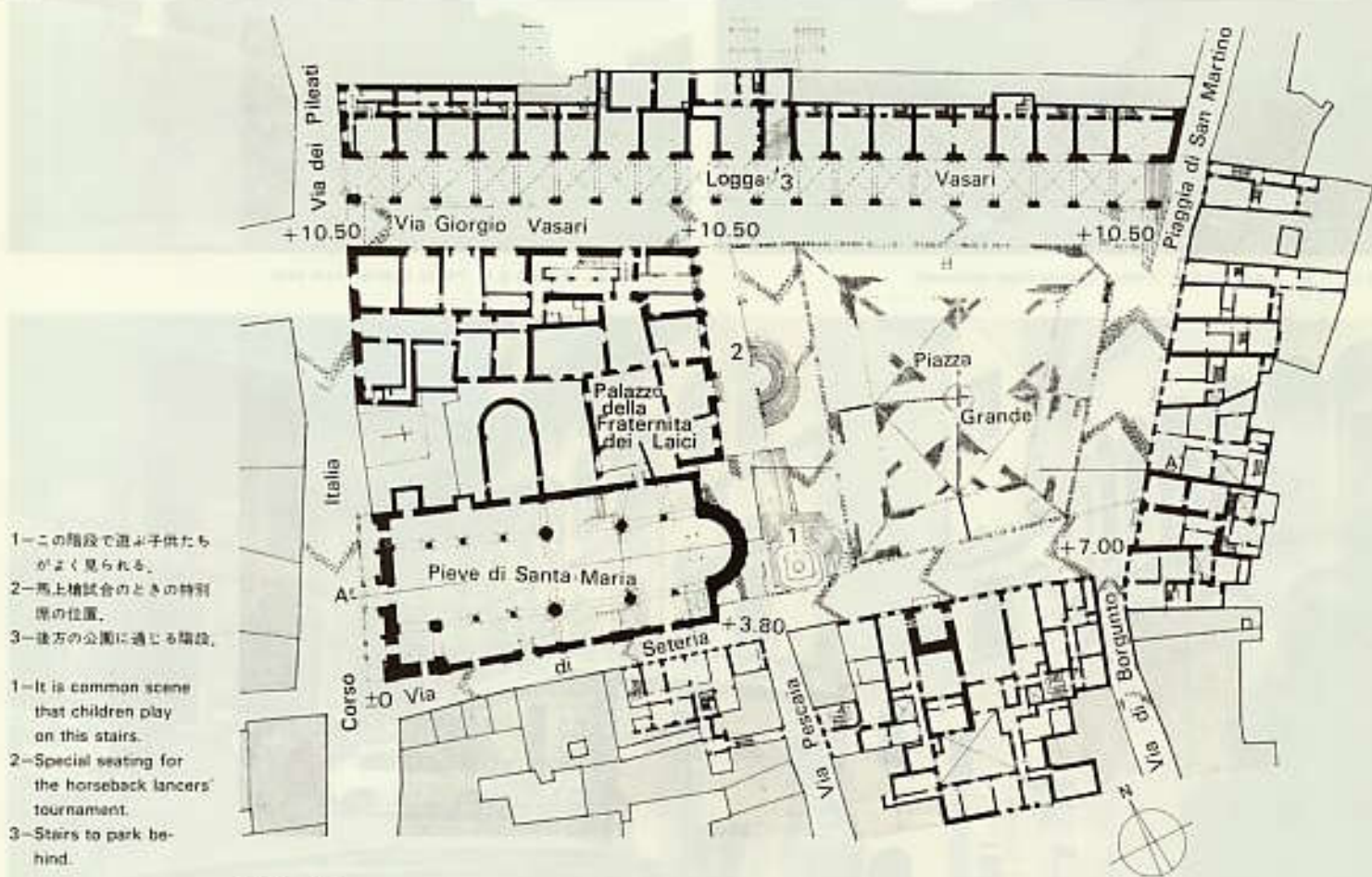
こうした造形美をみせる広場であるが、傾斜した広場にはいつも車がパーキングし、コルソからの入口付近にある噴水を囲む階段に数人の子供が遊んでいるだけである。このようにさびしい広場も、古道具市と馬上槍試合のある日は生き返ったような賑わいをみせる。

●毎月第1日曜日に開かれる古道具市(La Fiera Antiquaria)では、アレツォの人びとや近隣の町の人びとが持ちよった古道具、置物などが売買される。だいたい北側のロジッャから南に平行して並べられるが、傾斜地であるから市の様子がよく分かる。

●毎年9月の第1日曜日の馬上槍試合(Giostra del Saraceno)のときは、広場はいっぱいの人でうまる。数日前に運ばれた土が馬の北路——南側の右端から北側の左端の対角線上——に座られる。審判をつとめる市長や招待者などの特別席は、パラッツォ・デッラ・マラチルニタ・デイ・ランチの前方に、そして北側に観覧席が設けられる。広場を囲む家々の窓は、教区を応援する旗で飾られ、試合を盛りあげる。各教区を代表した若者は馬上から槍を操って、北側の左端に立てられた人形を突き、点を競う。

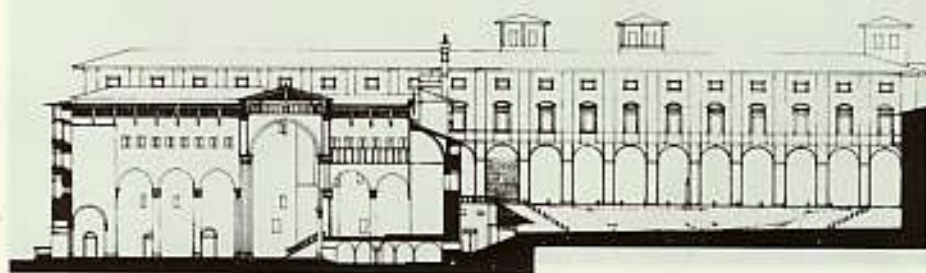
アレーツォは、小さな丘の頂上に要塞があり、その側の公園を中心にして、丘のなだらかな傾斜地を利用した中世の層状都市である。中央駅あたりから公園に一直線にのびたコルソ・イタリアと車の往来するヴァ・ローマの交差点の手前のデパートを中心にして、人の流れは、この街路のシンボルであるセエーヴェ・ディ・サンタ・マリーア教会の塔にもか

っている。しかしこの教会の約200メートル手前で人の流れはみられなくなる。だからこの教会の塔にあるグランア広場は、日常生活の中で必要とされることは少ない。



- 1-この階段で遊ぶ子供たちがよく見られる。
 - 2-馬上稽古試合のときの特別席の位置。
 - 3-後方の公園に通じる階段。
- 1-It is common scene that children play on this stairs.
 - 2-Special seating for the horseback lancers tournament.
 - 3-Stairs to park behind.

平面図, Plan



A-A' 断面図, Section A-A'

0 5 10 20M



馬上稽古試合, Horseback lancers' tournament.



グランア広場の敷石, Pavement of Piazza Grande



グランデ広場、南東側より見る、Piazza Grande from southeast.



グランデ広場、南側より見る、Piazza Grande from east.



噴水を囲む階段、Stairs around fountain.



裁判所、Court of justice.



噴水を囲む階段、Stairs around fountain.

自己領域における中心の「場」

エドワール・ホール
の著書「かくれた次

元」によれば、「社会性の動物は互いに接触を保つための社会距離を持つ」と書かれている。さらに「社会距離とは、一定の距離、限界を越すと動物が明らかに不安を感じはじめると心理的な距離」と説明されている。こうした動物社会と同じように、人間社会にも、情緒的に安定した感情と落ち着いた行動をえるために、生活の場の領域、また子供の社会における遊びの領域などを形成していると思われる。そして、これらの場の領域は、目的行動をなせる機能物によって決定されがちである。図書館、スーパーマーケット、行きつけの飲み屋、空き地などというものによって、行動の領域性が形成されている。そうした場で、はじめて社会的なコミュニケーションが行われ、言葉がかかわされ、また何気ない動作による触れ合いがなされ、自己の存在と社会的な領域の確保がより強化される。しかし、それは明確な形で示されるわけではなく、漠然とした場の領域でしかない。

イタリアの中世都市に見られるように、城壁に囲まれることで社会的領域性の確保がなされて、生活の場意識が生まれ、自己の都市、市民の都市としての愛着が生じてくる。さらに、すべての街路が集まる中心地、社交的な場、定期市・祭りの場、あるいは狭い街路に対して開けた場である広場などによって、各々の都市の性格をより強く表現し、それによって、その土地特有の土着性が生まれる。

しかし、日本では、現在このような形で、都市やまちの形成がなされていない。今後は、各々がもつ様々な行動範囲を包含する領域内に点在する不明瞭な中心の場を、より明確な形で表現する必要があると思われる。具体的には、地域社会における、一般市民の生活に密着した市庁舎、図書館、公民館などの公共建築物による場、また生活必需品が売られるスーパーマーケット、商店、書店などの商業地の場などのような必要性から生まれる場の形成が領域性の強化に必要である。

こうした場の形成において、広場が人と人との触れ合いの機会を与える媒体として登場し、これが、地域社会の漠然とした領域の中心的な核、象徴的な空間となり、「わたしの町」「あなたの町」という愛着が生まれることになるだろう。



伊藤源次

1972年に日大の建築工学科を卒業した後、ミラノ工科大学に留学、3年間さまざまな国々の旅行を重ねているうちに、イタリアの広場の魅力にとりつかれ、今日に至る。ここまで研究できたのは、一度に榎本知義氏をはじめとし、磯崎アトリエの藤江秀一氏、イタリアの渡辺泰明氏の助言によるおかげである。今後もイタリアを中心にヨーロッパの「建築と広場」の研究を続けて行くつもりである。

現在、渡辺泰明氏と共に、住宅、イタリアの小学校、レクリエーション施設、新しい美術館の調査などの設計をしている。



フィレンツェの街路、Street at Firenze.